

令和2年度 山形県立農林大学校 学校運営評価について

【運営方針1】教育カリキュラムの充実

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る

【基本方向】農業新技術等を組み入れたカリキュラムの強化					
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	次年度に向けた改善策
1 先進技術等に対応したカリキュラムの充実	(1)スマート農林業に関する講義の実施:6回	① スマート農林業に関する学習の充実【拡充】 今後、現地で普及が見込まれるスマート農林業に関する技術の習得を図るため、新たに直進アシストトラクターやドローン、収量センサー付きコンバイン、ラジコン草刈機等の操作実演、ICTを活用したセンシングによる環境制御技術や高度な経営管理技術などの活用に向けた体系的な授業を実施する。また、レーザー計測やドローンを活用した森林管理など、スマート林業の知識と技術の習得に向けた授業を実施する。 レーザー計測やドローンを活用した森林管理など、スマート林業の知識と技術の習得に向けた授業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> スマート農林業に関する技術の習得を図るため、農業機械メーカー(ヤンマー㈱、㈱南東北クボタ)の協力を得て、新たに直進アシストトラクター(4月)、田植え機(5月)やドローン(7月)、収量センサー付きコンバイン(9月)、ICTを活用したセンシングによる環境制御技術(6月)や高度な経営管理技術KSAS(7・10・11月)などの活用に向けた体系的な授業を実施するとともに、スマート農林業技術に関するベンチャー企業「株式会社ファーム・フロンティア」取締役会長による講演会を1月に開催した。 新たにドローン操縦のための免許取得のための「ドローン操作実習講座」を開講し、実習を行い、8名(1学年4名、2学年4名)が免許を取得した。 林業分野においては、レーザー計測の基礎知識に関する講義や実習(7月)やドローンを活用した森林管理に関する実習(8月)など、スマート林業の知識と技術の習得に向けた授業を実施した。 <p>* スマート農林業に関する講義を合計11回を行い、スマート農林業に関する学生の理解が深まったことから、「A」評価とする。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> スマート農林業に関する技術については、現在も技術開発が盛んに行われていることから、最新技術を学ぶため、農業機械メーカーと連携して、今後も実習や免許取得のための講座を開講する。 林業分野においては、レーザー計測やドローンを活用した森林管理の実習を行うほか、卒業論文等においてより実践的に活用し、課題を検証する。また、VR(仮想現実)を用いた伐倒やかかり木の危険予測についての学習を取入れ、スマート林業に関する学生の技術習得を図っていく。
	(2)GAPの実践:3品目	② GAPの取組み強化【継続】 現場で取組みが進む国際水準の農業生産工程の管理手法を学ぶため、ASIAGAPを既に取得している米と西洋なし、さらに今年度のメロンにおいて同認証を取得し、各作物において適合基準に則した管理を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 現場で取組みが進む国際水準の農業生産工程の管理手法を学ぶため、ASIAGAPを既に取得している米と西洋なし、さらに今年度、新たにメロンにおいて同認証を取得し、各作物において適合基準に則した管理を実践した。 平成30年度に取得した「農場HACCP」の衛生管理手法等に基づき、乳用・肉用牛の飼育管理を行った。 <p>* 米、西洋なし、メロンの3品目について、GAPを実践したことから、「C」評価とする。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 認証を取得した作物に関して、習得した農業生産工程の管理手法に基づき、継続的な生産を行う。なお、これまでの取組みによって、管理手法のマニュアル化が完成したことから、更新審査は行わないこととする。 「農場HACCP」については、更新審査は行わず、作成した管理マニュアルにより、乳用・肉用牛の飼育管理を行っていく。
	(3)新たな加工品の商品化:1点	③ 製品加工実習による農産加工技術の充実【継続】 乳製品加工技術を習得するため、平成30年度に整備した乳製品加工施設を利用して加工技術に関する実習を行い、開発・製造したチーズ(ストリングスタイプ等)を販売する。	<ul style="list-style-type: none"> 乳製品加工技術を習得するため、整備した乳製品加工施設を利用して加工技術に関する実習を行い、開発・製造したチーズ(ストリングスタイプ等)を農大市場(4回)の他、県庁購買部(11回)で販売した。 卒論研究で新たにモッツアレラ・チーズ製造に取組み、商品化に成功し、農大市場で販売した。 <p>* 新たにモッツアレラ・チーズ(1点)を商品化したことから、「C」評価とする。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> 乳製品加工技術を習得するため、今後も加工技術に関する実習を行い、定期的に製造したチーズ(ストリングスタイプチーズ・モッツアレラチーズ)を農大市場等で販売する。
2 実践教育を重視したカリキュラムの充実	(1)先進農林業者等体験学習の受入農林業者等の評価:良好との評価80%	① 先進農林業者体験学習等の実施【継続】 農業者の下での実地体験を通じて、実践的な技術や優れた経営感覚を学ぶため、先進農林業者等体験学習を実施する。なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の発生により、前期10日間の実施を見送ったことから、後期を10日間と5日間の2回行い、計15日間(当初計画では20日間)とする。	<ul style="list-style-type: none"> 農業者の下での実地体験を通じて、実践的な技術や優れた経営感覚を学ぶため、先進農林業者等体験学習を実施する計画であったが、コロナ禍により実施を見合わせた。 <p>* コロナ禍のため、先進農林業者等体験学習を実施できず、評価なし。</p>	-	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の状況を見ながら、1学年前期と後期の年間2回、各10日間の先進農林業者等体験学習を実施できるよう、臨機応変に対応していく。 今年度、コロナ禍のため、実施できなかった1学年については、2学年前期に先進農林業者等の協力を得て、5日間実施する。なお、これまで原則、先進農林業者宅で宿泊して実施していたが、今年度は、コロナ禍等への対応として日帰りで実施する。
		② インターンシップの導入【継続】 就農及び就職希望の学生が、現場で実践的な技術や知識を学ぶため、農業法人や食品関連企業、森林組合等の理解と協力を得て、インターンシップを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 就農及び就職希望の学生が、現場で実践的な技術や知識を学ぶため、農業法人や食品関連企業、森林組合等の理解と協力を得て、インターンシップを実施した。本取組みにより、就職志望先に関して、学生自身が就職イメージを醸成することができたことともに、インターンシップ先の農業法人等からも「事前に学生のことを知ることができ良かった。」との意見得た。 		
3 先端技術に関する現地調査カリキュラムの充実	(1)現地調査の実施数:40回	① 最先端の研究や生産現場等での現地調査の実施【継続】 先端技術について学習するため、各学科ごとに研究機関や農業法人、企業、森林組合等での現地調査を実施する。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、県内への現地調査を中心とし、実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 各農業系学科では、県内の先進的な農業者・農業法人や試験研究機関、青果・生花市場、食品製造会社等への研修を通して、経営の考え方や最新技術、市場動向等を学んだ。 林業経営学科では、森林組合や木材関連企業等の協力を得て、実践的な技術習得に取り組んだ。また、GPS機器を使用した実習やGISによる森林情報管理技術など、IT関連の最新技術について学んだ。 <p>* 現地調査の実施回数は全7学科で113回となり、目標の40回を大きく上回ったことから、「A」評価とする。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も農林業の優良事例や最新の農林業の技術等を視察し、現場段階での最新技術の取組み等の知識習得を推進する。 林業経営学科では、林業・木材関連企業等の協力を得て、最新技術等に関する知識習得を引き続き支援する。
4 新しい生活様式に対応した授業の実施	(1)遠隔授業実施のための設備の整備	① 新しい生活様式に対応した遠隔授業等の実施【新規】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため提唱された新しい生活様式に対応するため、授業の際、学生はマスクを着用し、密にならないよう着席する。また、遠隔授業のためのWiFi環境やパソコン、タブレット等を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 新しい生活様式に対応するため、授業の際、学生はマスクを着用し、密にならないよう定員のおよそ半数の人数に制限したり、全学年の場合は、会場を体育館にするなどの対応を行った。 遠隔授業のため教育棟にWiFi環境を整備するとともに、パソコン(1台)、タブレット(7台)、ウェブカメラ(14台)、ヘッドセット(14台)、大型モニター(15台)、小型ビデオカメラ(1台)を整備した。また、山形県がウェブ会議サービス「Zoom」の利用ライセンスを取得した。 ウェブ会議サービス「Zoom」を用いて、コロナ禍により来校できない県外の講師等から講義を受講した。 <p>* 遠隔授業実施のための設備の整備を完了し、学生のウェブ講義等を開始したことから、「C」評価とする。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍が収束するまで、新しい生活様式に対応した授業を実施していく。 遠隔授業システムは、来校して講義をすることが困難な一流講師からも講義を受けることが可能であることから、その利点を活かし、遠隔地の一流講師による授業を実施する。

自己評価	評価
<ul style="list-style-type: none"> スマート農林業に関する学習を拡充し、さらにGAPの取組みを強化するとともに、整備した乳製品加工施設を利用し、チーズの製造・販売を実施する等、概ね目標を達成することができた。 先進農林業者等体験学習については、コロナ禍により実施できなかったが、インターンシップは実施でき、各学生が早期に進路を決定することができた。 生産現場等での現地調査については、コロナ禍により県外への調査は中止としたが、県内への現地調査を充実させ、目標を大きく超えて達成することができた。 遠隔授業実施のための設備を整備し、それらを利用して、コロナ禍により来校できない県外講師等から講義を受講したり、就職志望先とのウェブ就職面接を行った。 	B

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	学校関係者評価(意見)	評価
<ul style="list-style-type: none"> スマート農林業に関して実際に就農して機械導入を考えた際のコスト面も一緒に学習できたらいいと思う。 → スマート農林業に関する技術は、コスト面が大きな課題であることから、本技術に関する長所と短所や本技術の導入し成果を挙げている事例などを整理して、教えることとします。 林業分野においても今後スマート林業の構築が必須となっていく事や、森林経営管理制度における森林基礎データの解析など、その知識が求められていることから大変良い取組みと評価している。今後とも拡充して頂きたい。 → スマート林業に関する技術の習得は、今後とも重要と考えています。技術開発の動向を注視しながら、メーカーの協力を得ながら、最新の技術を実習できるような内容を拡充していきます。 コロナ禍の中、できることは以前と違うと思いますので、できる範囲で進めてください。 → コロナ禍の状況は日々変化していることから、その状況を注視しながら、学生の健康を最優先として、可能な教育方法を検討しながら、講義、実習などを実施していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、校外での活動が制限される厳しい1年だったと思われるが、上手く取組んでくれたと思います。 遠隔授業等の実施が当たり前になる中で、環境の整備を完了できたのは良かったと思います。今後は、遠隔授業の質が問われるようになりますので、先達としてよろしくご指導ください。 	B